

蕨第201008号

平成20年10月8日

国土交通省道路局長 様

蕨市長 頼高 英雄



今後の道路行政についての意見・提案提出について

日頃から当市の都市整備の推進につきましてご指導、ご協力賜りありがとうございます。

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件につきまして、別添のとおり回答いたします。

都市整備部 まちづくり推進課

TEL 048-433-7714

E-mail : mati@city.warabi.saitama.jp

《道路行政全般について》

近年、地球温暖化やオゾン層の破壊など、地球規模での環境問題が指摘されており、国際的な取り組みが求められている。なかでも、地球温暖化は、その予想される影響の大きさや深刻さからみて、人類の生存基盤に関わる重大な問題となっている。

従来、道路行政は、自動車等の交通需要に対応した、インフラとしての道路の整備を行なうことを基本的な課題としてきたが、地球温暖化防止の取り組みが急務である今日、需要に対応したインフラ整備という考え方を超えて、道路利用者等との連携により、地球環境への負荷の少ない道路利用への転換とより良い環境創出を目指して道路政策を展開していかなければならないと考えている。

《要望や提案など》

◆地球環境への負荷の少ない道路利用への促進

都市内において、幅の広いゆったりとした、段差・勾配・傾斜などに配慮した歩道を整備し、さらには木陰や歩行者広場を整備するなど、快適かつ安全な歩行空間を提供し、短距離移動の自動車利用を徒歩へと転換していく必要がある。

◆道路の整備・管理による環境負荷の軽減

道路工事の発注等において、省エネ型の建設機械の利用を始め、工事期間の短縮による渋滞の緩和など、コストだけでなく環境負荷の軽減を含めた総合評価方式を積極的に導入し、環境負荷の小さな道路工事の推進に努める。

②-1 地域の現状と抱える課題

埼玉県蕨市

○現状

蕨市内には、現在、認定道路として、947 路線・149,672 mあるが、大部分の路線が経年劣化等や交通量の増大により、「ひび割れ」・「わだち」等で道路交通振動が発生していることから、毎年、部分的に道路の補修工事を施しているが、これも限界状態である。

このような状況のなかで、当市では平成 14 年 4 月に「道路の維持管理マニュアル」を策定し、実態調査等を行い、事務量や事業費を明らかにし、基幹的な道路ネットワークを構成する幹線を中心に、舗装状態の一番悪い道路から順次、補修工事を行っている。

また、道路の維持管理予算は現状でも不足しており、ストックの増大とともに、その不足の程度は一層著しくなることが予測される。

○課題

地方公共団体は、道路の新規建設や更新、災害復旧の場合には、国からの補助金や地方債の起債といった手段を利用することが可能であるが、維持管理の費用は補助制度も少なく、基本的に起債は活用できないため、費用のほぼ全額を一般財源で確保しなければならない。

このようなことから、地方公共団体が自ら管理する道路については、新規建設も維持管理も含めて、全体として最適な予算配分を自らの判断で行なわれるような仕組みの実現を目指す必要がある。

《蕨市が目指す道路・交通の将来像》

■計画的な幹線道路の整備

幹線道路整備として、市内外の利便性を高めるため、土地区画整理事業に合わせて都市計画道路の整備を推進するとともに、既存の幹線道路の維持管理や陸橋の補修などを計画的に進める。

■安全で快適な生活道路の整備

市民が日常的に利用する生活道路の安全性を確保するため、土地区画整理事業の進捗などに合わせて、道路の改修、狭隘道路の拡幅整備や橋りょうの改修を計画的に進める。

また、市内での歩行による移動を快適なものとするため、高齢者や障害者にやさしい歩道のバリアフリー化に加え、緑化や安らぎと潤いにも配慮した道路環境の促進を図る。

■駐車場・駐輪場の整備

駅前などの中心市街地における交通の円滑化を図るため、駐車場附置義務の制度化や駐車場の整備、駅周辺における市の駐輪場の確保に努める。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
良好な都市環境を創造する道づくり	国道 17 号線(排水性舗装) ※蕨市では、車道部の排水性舗装は施工コストや維持管理費の費用負担が大きい、実績はないが歩道部においては、透水性舗装を極力採用している。	都市部においては、ほとんどの道路が舗装されてしまったことで、夏には道路に熱がこもり、都市の高温化をもたらすなど、ヒートアイランド現象の原因の一つと考えられる。 雨水浸透型の舗装は、水が通り抜け土にしみ込む構造となっているため、晴天時には土中の水分が蒸発することで気化熱を奪い、路面の温度を下げることを期待され、また、雨天時には、雨水が地中に浸透して表面流出を抑制する効果が大きい、人々が快適に生活できる都市環境を創出するため、積極的な活用を図る必要がある。	